コーヒーブレイク

スール（南）へ。

会員　藤沢 抱一（27 期）

2013年12月9日
インド洋上で 赤道越え記念

2013年11月22日，横浜大桟橋から105日間の南回り世界一周のクルーズに出た。インド洋，南大西洋，南太平洋の旅である。陸上27日，寄港地17，海上78日，変化に富んだ旅だった。

海へ

海は黒からコバルトブルーの間で色を変え，南極近海はプランクトンが豊富で濃い緑であった。荒れた時は風速20メートル，波高7メートルに達した。日の出，日没の空は，ピンク，オレンジに染まり，夜，オリオン，シリウス，南十字，それを結ぶ天の川の世界。インド洋で赤道を越え南緯へ。大西洋で暑い正月を迎え，船上では年越パーティー，カウントダウン，新年の挨拶，餅搗きが繰り広げられた。

島へ

インド洋上のモルジブ，モーリシャス，マダガスカル，南太平洋上のイースター島，タヒチと寄港した。市場の活況が印象的だ。魚，肉が冷蔵，冷凍装置のない飯台に並べられ，衣類，雑貨などが売られている。人々が集まり，近くにバスターミナルがあり，街の中心となっている。人々は温和で優しい。タヒチではバスを待つ間，2人から「同乗したら」と声を掛けられた。

アフリカ大陸へ

南アフリカ北部ダーバンに上陸した。動物公園，水上公園に行き，ジープ，船で動物等の生活圏に入り楽しんだ。広大で動物達は侵入者を気にすることなく悠々と動き回っていた。

12月25日，朝靄の中南部ケープタウンに入港した。街の背後にテーブルマウンテンが立ち上っている。海からマウンテンに向い緩い登りで街が出来上がっている。道路・公園等都市基盤の整備がされており，島との差を感じた。港にはオットセイが遊び愛嬌をふりまいていた。

南米大陸へ

リオデジャネイロは，クリスマスディナーを一緒した御夫人が同行した。地下鉄，バスで移動し，夜明前船からライトアップされたキリスト像が見えたコルコバートの丘から博物館へ。そこは充実し，シーラカンス・ミイラ・隕石の展示が印象的であった。60才以上は国籍に関係なく無料と言われ感激。しかし，我々が60才以上とどのように判断したのだろうか。夕食は名物ビーフ料理1セット頼んだ。ビーフ，ソーセージそれぞれ3枚，ポテトフライ，ライス，それぞれの皿山盛。2人で食べきれる量ではなかった。

ブエノスアイレスは素敵で気に入った街。南米のパリと称されるのも頷ける。鉄道の玄関レティーロ駅は最高で，旧い石造りの駅舎は大きく，ドームになっており目を見張った。コロン劇場，隣の最高裁判所は，コロニアル式の重厚な佇まいを見せていた。タンゴ発祥のボカ地区に行くと，至る所でタンゴが演奏され，歌があり，踊りがあった。中心部から放射線状に地下鉄が走り，始発駅から終点まで30分程乗り，郊外の住宅地は落ち着いた街だった。

南極に一番近い街アルゼンチンのウッシュアイアで冠雪の山と海の間8キロを散歩し自然を満喫した。塩ゆでの蟹は美味であった。ペルーでマチュピチュに1泊2日の旅をした。天空の都市。文化，技術，努力に改めて息を呑む。クスコよりインカ道徒歩で3日間のコースがあり，次回挑戦したい。リマ市内で2日過した。リマ旧市街は，世界遺産に指定され，コロニアル式の建築物が多くを占め，カテドラル，教会，政府庁舎等は目を引いた。夜，ネオンがなく，街灯に照らし出されるそれらの建物は幻想的であった。

私は，1995年頃，ペルー人女性マリア（仮名）の窃盗事件を国選で受任した。小太り中背，40才位，控え目で愛嬌があった。無罪。彼女は弁護費用のことを心配した。私は以前，フランスで指を怪我し公立病院で治療を受けた。支払の時会計はクローズしており，職員は明日というが帰国の為無理だった。職員はさり気なく「フランスからのプレゼントだ」と小粋に言った。

彼女に「日本からのプレゼント」と伝えた。粋な言い方は出来なかったが。刑事補償金200万円を送金した。家が買える額だ。リマで多くのマリアに出会った。アディオス・スール。